

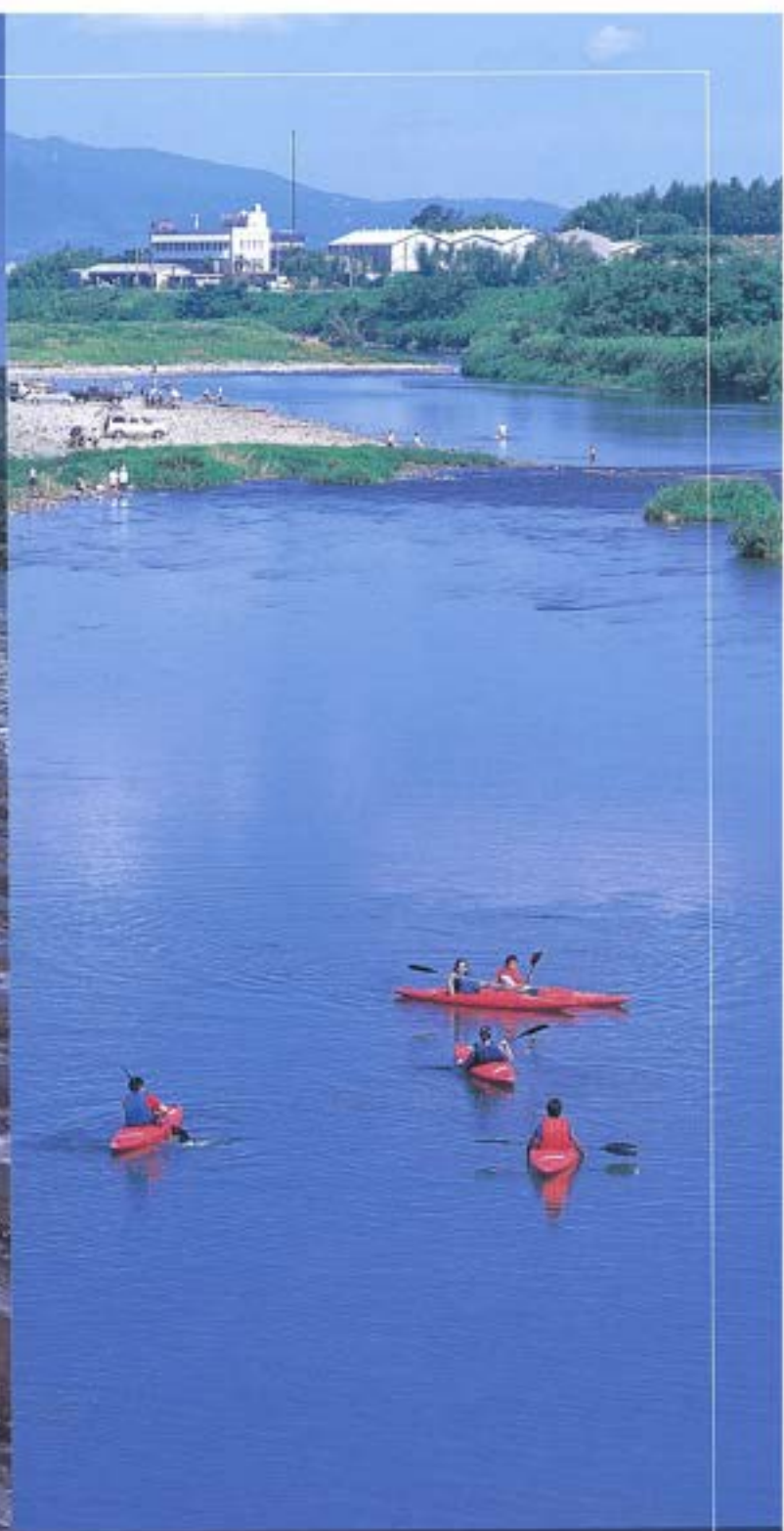
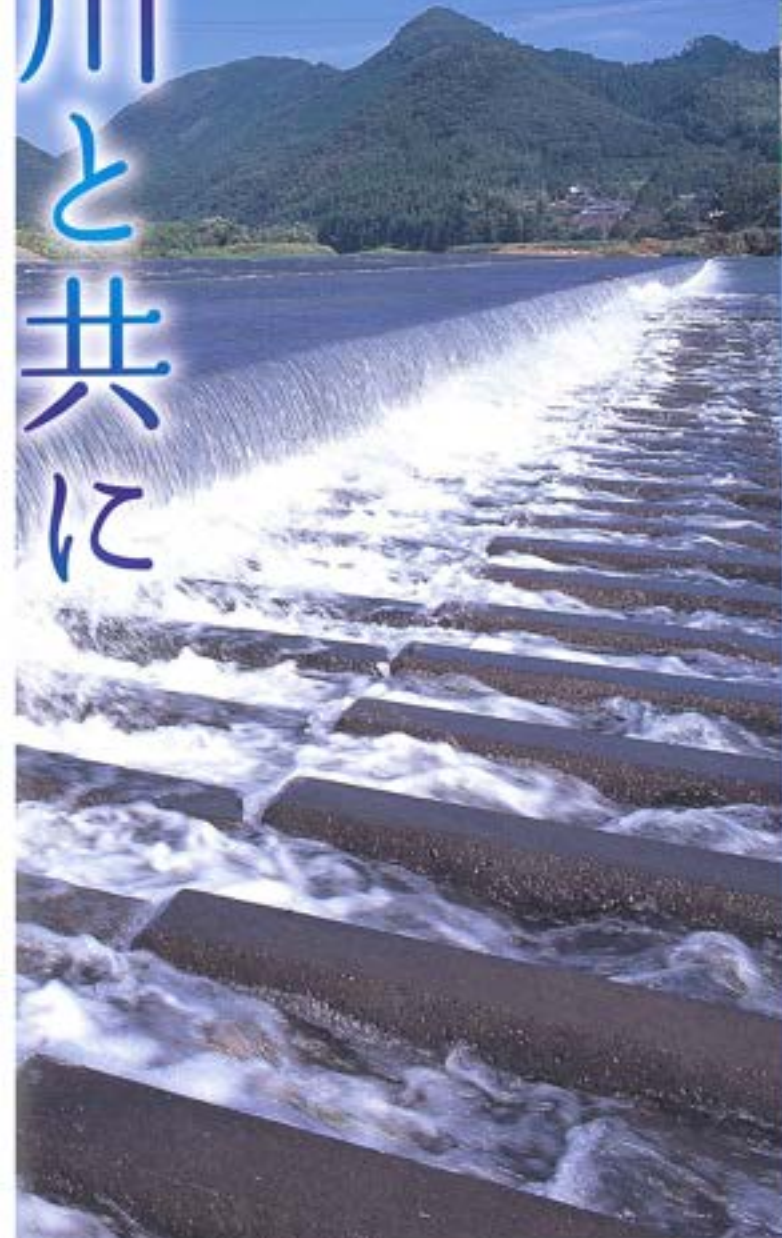
川と共に
歩むまち



甲
佐

Kosa Kumamoto

川と共に



川と共に歩むまち

何世紀もの間、多くの命を育んできた緑川の流れ。

それは、私たちに豊かな恵みを与えてくれる優しい貌^{すがた}だけでなく、時には恐ろしい洪水となって牙をむく荒々しい貌^{すがた}も持っています。

甲佐の人々が歩んできた歴史という長い道の際には、いつも緑川が流れていました。

町の概要

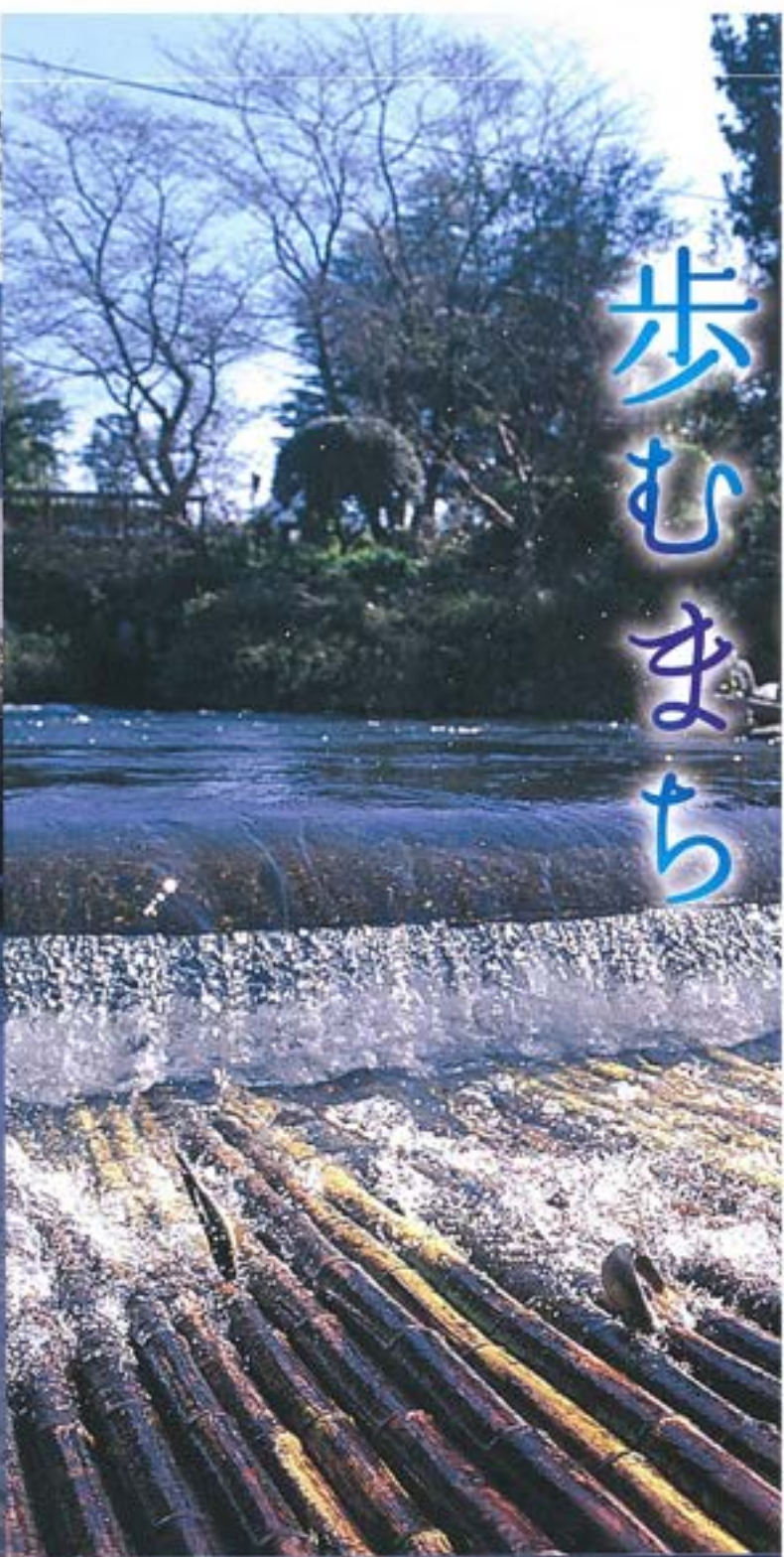
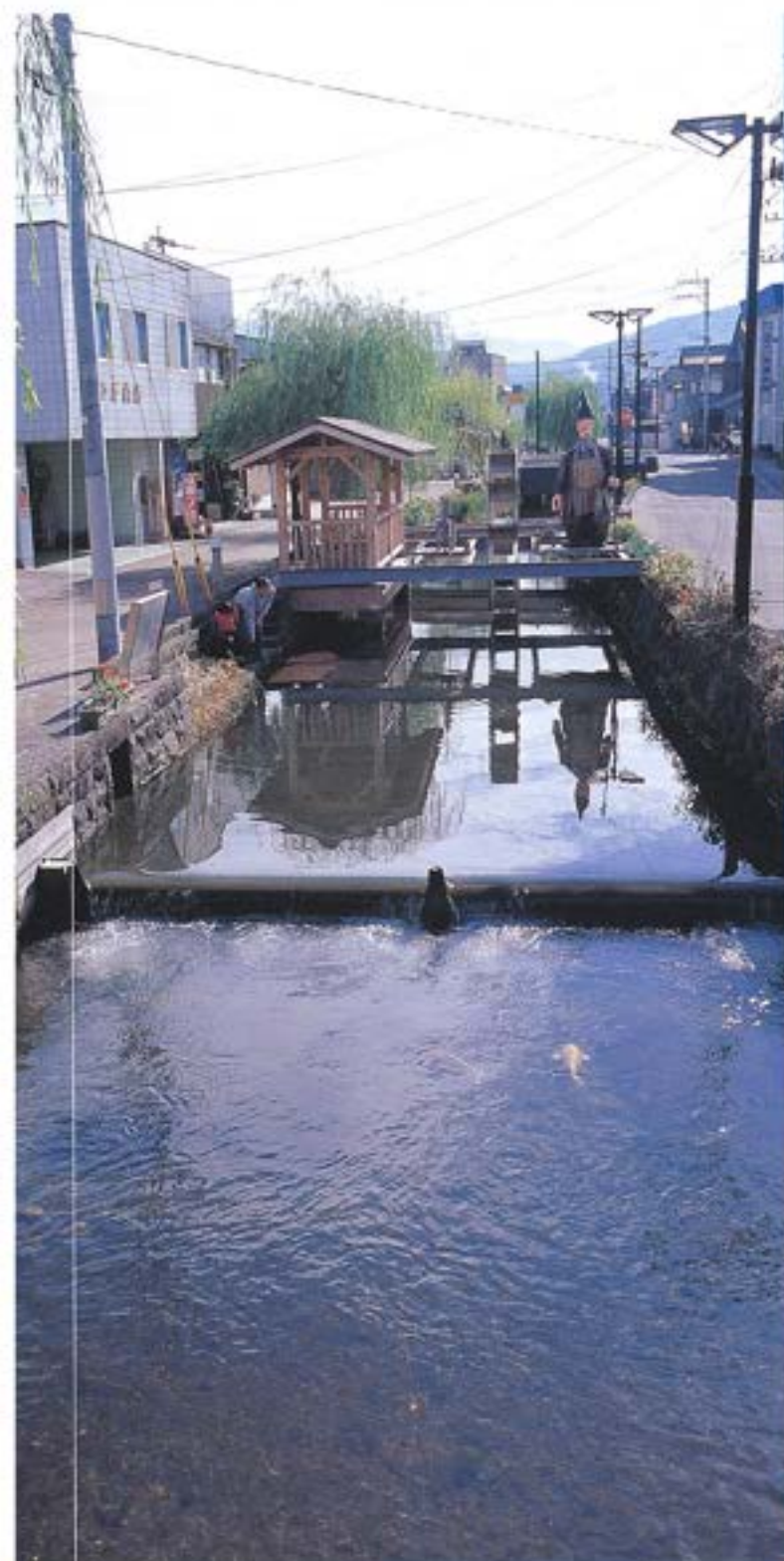
本町は、昭和30年1月1日、宮内村・甲佐町・竜野村・乙女村・白旗村の合併により人口約1万8千人の新生「甲佐町」として発足しました。

熊本県のほぼ中央、熊本市の南方約20kmに位置する本町は、南北に清流「緑川」が貫流する自然豊かな町。緑豊かな山々、清らかな川の流れ、肥沃な大地など自然の恵みを存分に受け、農業を中心に文教の町としても発展してきました。

気軽に川とふれあえる「津志田河川自然公園」、細川忠利公ゆかりの「やな場」、国天然記念物の「麻生原のキンモクセイ」をはじめとする数多くの観光資源は、町民をはじめ訪れる多くの人々の心をいやしています。

現在、「自然環境を活かし、文化と交流が育む暮らしやすい安心・安全なまちをつくります」を基本理念に掲げた第6次町総合計画に基づき、緑川をはじめとする自然や人のふれあいを大切にしながら、まちを活性化するため農・商・工業・観光が互いに連携しながらまちづくりを進めています。

歩むまち



◎データ

面積 / 57・87 km²

人口 / 11,279人 (平成27年1月末現在)

世帯数 / 4,289戸

◎交通アクセス

(マイカーご利用の場合)

阿蘇くまもと空港(益城町)から約30分

熊本市街から約30分

御船I・Cから約15分

小池高山I・Cから約15分

松橋I・Cから約20分

(路線バスご利用の場合)

熊本バス

熊本交通センター(迎場経由)甲佐約45分

甲佐町の
ポテンシャル

人のチカラ

環境の充実



自然の彩り



歴史との融和



都市圏との交流。
大きく広がるフィールドが
ここにあります。

花と緑と鮎の町で 暮らしてみませんか

【定住促進施策】

甲佐町では、活力ある町づくりを目指し、「自然との調和のとれた住環境の整備と豊かさを実感できるゆとりのある生活の創出」を図るため、町独自の制度を設け、住宅開発支援を行っています。

町の指導要綱により承認された団地は、1区画230㎡以上の広さで、四季折々の自然の中でゆとりある暮らしを送ることができます。また、定住助成制度もあり、子育てにも適しています。

甲佐町の美しい自然と魅力ある景観に囲まれた良好な住環境を提供できるよう、これからも魅力ある住まいづくりを進めていきます。

熊本市



平成27年2月末現在



森の住宅



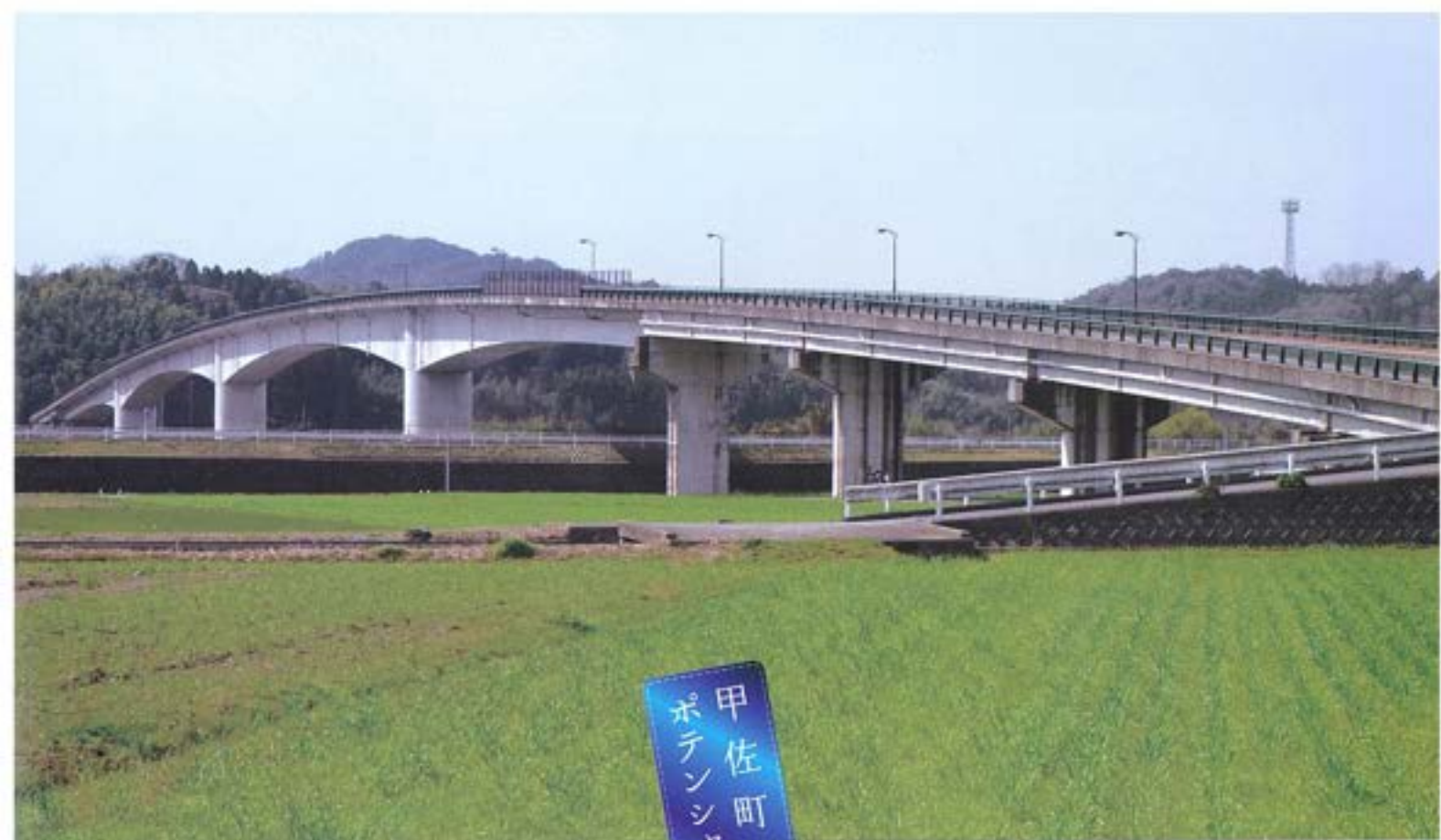
サン・グリーンニュータウン



あゆの里 緑川団地



芝原第二団地



甲佐大橋（広域農道）

甲佐町の
ポテンシャル

農業

甲佐ブランドの確立に向けて

農業は、甲佐町の基幹産業。緑川の恩恵を受けた肥沃な大地で、主に水稲、野菜、花き類の栽培が行われています。

中でも「ニラ」と「キク」、「クジャク草」の生産が盛んで、甲佐ブランドの確立を目指し、品質向上に努めています。

甲佐町では、効果的・効率的な農業生産に向けた取り組みとして、ほ場や広域農道の整備を進めるとともに個別完結型農業から集落型農業へと転換を図っていくために生産組合の組織化を推進。認定農業者への支援も積極的にを行っています。

また、樹芸も盛んで、田口にある甲佐町グリーンセンターでは、10月から5月にかけて毎週日曜日に植木競り市を開催しています。



大型稲刈り機



宮内の棚田



ニラ



キク



クジャク草



ガーベラ



ミカン



タバコ



甲佐町グリーンセンター



ニラ



甲佐町農業研修センター
「ろくじ館」



ショッピングパーク「彩甲」



ショッピングセンター「サ・エ・ラ」

甲佐町の
ポテンシャル



下白旗地区の工業群



買い物風景

商業・工業

魅力あふれる商店街と
立地を活かした工業群

商業は、商店街や国道443号沿いのエリアへの集積化を図り、駐車場の整備や店舗の共同化など近代化を進めています。商店街においては、周辺を流れる大井手川にニシキゴイを鑑賞しながら休憩できる「あずまや」を設置。周辺住民や買い物客の憩いの場にもなっています。

工業については、雇用の創出ならびに税収増による財源確保を図るため、熊本市や九州自動車道に近接するという立地を活かした企業誘致を進めています。



国道443号沿い



甲佐町民会館



安津橋健康広場と星の川団地

甲佐町の
ポテンシャル

住環境

花と緑あふれるまち並み

熊本県のほぼ中央に位置する甲佐町。国道・県道、広域農道など主要幹線へのアクセス道の計画的な整備を進めることで、より住みよい町を目指します。

また、熊本市のベッドタウンとして注目を集める甲佐町では、分譲団地などに住宅を建設した人に対して独自の助成制度を設けるなど定住促進にも力を入れています。

清浄な水を供給する上水道は、山間部を除く約90%に普及しています。

花と緑あふれる思われた住環境を守っていくため、廃棄物のリサイクルおよび合併処理浄化槽の普及にも努めています。



芝原団地



グリーン団地



合併処理浄化槽



町水道管理センター



町営バス わかあゆ号



甲佐町消防団

消防・防災

安心・安全な町を目指して

甲佐町では、火災や風水害から住民の生命・財産を守るため地域防災計画を策定するとともに、自治消防団を組織。団長以下約500人の団員が一元となって、火災予防運動や防災訓練に取り組んでいます。

行政組織内には、専門の「くらし安全推進室」を設置し、災害や予期せぬ事件・事故に備えた啓発活動、警察署および交通指導員と連携した交通安全運動を展開。緊急時の情報伝達を確保するための防災行政無線も整備しています。



出初め式での一斉放水



防災行政無線



くらし安全推進室





甲佐小学校

甲佐町の
ポテンシャル

学校教育

自然の中で郷土を愛する
心豊かな人材を育成

甲佐町の小・中学校では、人間尊重の精神を基盤に置き、学校、家庭および地域社会の連携のもと、開かれた、信頼される学校づくりを推進しています。

郷土を愛し、環境を大切にする心をはぐくむため、緑川をはじめとする豊かな自然を活かした環境教育を実践。さらに外国語指導助手の設置やパーソナルコンピュータの活用など、国際化・情報化社会にも対応できる町の将来を担う人材の育成を図っています。



親子クッキング教室



給食風景



シャトルバス





安津橋健康広場「グリーンパル甲佐」

甲佐町の
ポテンシャル

生涯学習・スポーツ



郡民体育祭（ソフトボール）



体力づくり駅伝大会



地区ビーチボールバレー大会

地域に根ざす社会教育活動

甲佐町教育委員会では、甲佐町役場と併設の生涯学習センターを拠点に各種講座や催し物などを実施し、生涯学習の推進を図っています。センター内の図書室には、幼児や児童を対象とした「おはなしのへや」を設置。ポランテアによる絵本の読み聞かせも行われています。

緑川の河川敷に作られた町営グラウンド・ゴルフ場「グリーンパル甲佐」は、4コース32ホールの本格的な芝生コース。町民の健康づくりに一役買っています。その他総合型スポーツクラブによるスポーツ教室も各種行われています。



甲佐町文化祭



生涯学習センター 図書室



甲佐町総合保健福祉センター「鮎線」

甲佐町の
ポテンシャル



鮎線の湯



画みがき教室

エクササイズ教室



地域の敬老会

健康・福祉

人々が生きがいを持って、明るく輝いていくためには健康が大切です。甲佐町では、住民の健康を守るために、平成12年に甲佐町総合保健福祉センター「鮎線」を設置。各種健診や予防接種、生活習慣病予防や介護予防など町の保健福祉サービスの拠点施設として、乳幼児からお年寄りまでのあらゆる世代に対する健康増進、疾病予防事業を行っています。

輝く未来と無限の可能性を持った子どもたちは、かけがえない町のたからもの。

地域で健やかに育んでいくために、甲佐町では、放課後児童育成事業や子育て支援事業など次世代育成支援も行っています。



予防接種

住民との対話を第一に

甲佐町では、第6次総合計画を基本とし、住民との対話を第一に、総合的かつ計画的な町づくりを推進しています。社会情勢が変化していく中、自治体は行政運営の効率化を図っていくだけでなく、住民サービスを低下させないよう努力していかなければなりません。平成17年に建築した甲佐町役場庁舎には、休日にも証明書などの発行ができる「365日窓口」を設置するなど、住民サービスの向上を図っています。

行政



総合案内窓口



365日(休日業務の)窓口



役場庁舎及び生涯学習センター

開かれた議会を目指して

甲佐町議会は、町民から選出された12人の議員により構成された町政運営の意思決定機関です。議会には、年4回の定例会と必要に応じて開催される臨時会とがあり、条例の制定、改廃のほか、予算の議決や決算の認定などを行います。議会組織は、議会運営委員会、総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会があります。また、議会だより「清流」の発行などの広報活動を通して親しみやすい開かれた議会を目指しています。

議会



町議会棟



議会だより「清流」



甲佐町の魅力

特産品

甲佐町の特産品は、時代とともに変化。現在は、ニラ、クジャク草、キクの3品目が代表選手。お土産には、鮎の甘露煮と井戸江峡まんじゅうが定番。江峡まんじゅうが定番。町では、全国に誇れる「甲佐ブランド」確立を目指し、常に調査・研究を行っています。

やな場



クジャク草



ニラ



マシュマロと
井戸江峡まんじゅう



肥後そう川手延べ麺



鮎の甘露煮



鮎のうるか

名所

麻生原のキンモクセイ・やな場

昭和9年に国の天然記念物に指定された「麻生原のキンモクセイ」は、大きき日本一と言われています。開花時期にはその芳香が緑川対岸にまで漂い、多くの見物客を集めます。茅葺き屋根のあずまやで涼感たっぷりに鮎料理を楽しめる「やな場」は、町の夏の風物詩。寛永10年(1633)に肥後藩主細川忠利公の命により造られたと伝わっています。



麻生原のキンモクセイ



甲佐町グリーンセンター

樹芸の盛んな田口地区にある甲佐町グリーンセンターでは、熊本県内でも珍しい植木祭り市が行われています（毎年10月から5月までの毎週日曜日に開催）。祭りには、樹芸業者だけでなく一般の人でも参加できるため、安価で良質な植木を求める人々に大いに賑わいます。



川平キャンプ場

井戸江峡キャンプ場を過ぎて、さらに川沿いの県道を上っていくと、右手に川平キャンプ場が見えてきます。ここでは、小規模の研修などに利用できる施設とキャンプサイトがあり、炊飯場やトイレも完備。静かな山間のキャンプ場で、川のせせらぎに耳を澄ましてみませんか。



中甲橋グリーンパーク

中甲橋グリーンパークは、甲佐町と美里町（旧中央町）を結ぶ中甲橋の緑川上流右岸にある河川公園。気軽に緑川の豊かな自然と触れ合える町民のいこいの場としてだけでなく、釣り大会や恒例の夏祭り「あゆまつり」の花火会場としても利用されています。



津志田河川自然公園

通称「乙女河原」として、アウトドア志向のグループやファミリーの人気を集める津志田河川自然公園。夏場には、川遊びやバーベキューを楽しむ人々でいっぱい。水着で川に入ってもよし、パラソルやテント休憩するもよし、大人も子どもも思いっきり遊べる場所です。

川と共存する生物たち

緑川には、アユだけでなく、いろんな種類の鳥や魚がいっぱい。地元で「ゴリ」と呼ばれるヨシノボリは、甲佐町の環境教育マスコットとして親しまれています。



ササゴイ(サギ科)



カイツブリ(カイツブリ科)



カジカガエル
(アオガエル科)



ニッポンバラタナゴ
(コイ科)



アユ(アユ科)



オイカワ(コイ科)



ヨシノボリ(ハゼ科)



カマツカ(コイ科)



オシドリ(カモ科)

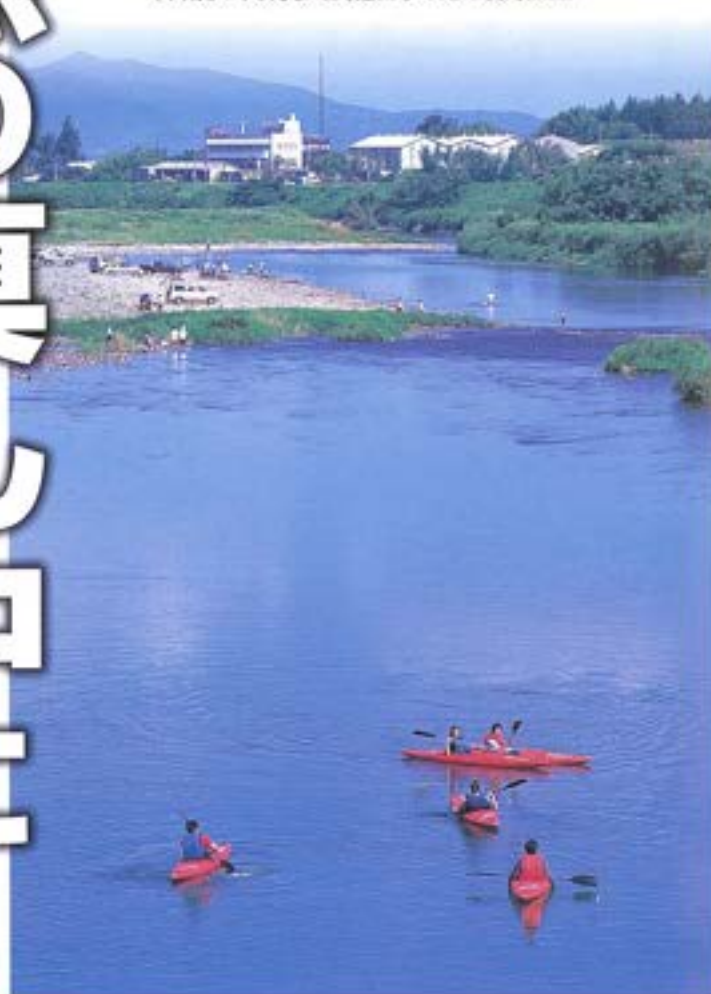
大自然の真ん中に



井戸江峡キャンプ場

緑川に架かる木製のつり橋を渡ると、川の流れを目の前に、緑の木々に囲まれた井戸江峡キャンプ場があります。テントスペースに加え、バンガロー5棟にキャビン2棟と宿泊施設も充実（炊飯場、シャワー、トイレ完備）。家族や仲間たちと自然を満喫して楽しい一日を過ごせるスポットです。

（平成31年3月まで周辺工事のため使用休止）



歴史と融和するまち



円福寺跡阿弥陀如来座像(町指定文化財)



陣ノ内館跡

陣ノ内館跡は、中世から近世にかけて造られた城跡で、現地には幅20m、延長400mの堀。それに沿う高さ5mの土壁が残ります。近年行われた調査では、四方を囲った城跡であったことが分かり、小西行長が緑川中流域の拠点としていたと考えられます。



甲佐神社



「てつほう」馬を射られながら奮戦する季長(『蒙古襲来絵詞』宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)

昔、甲佐を流れる2つの川は、雨が降ると度々洪水になっていました。加藤清正公は「2つの流れを一つにしたら洪水も起こらず、田に水を引けるはずだ」と大勢の人を使って工事を始めました。しかし水をせき止める工事は難しく、失敗を繰り返していました。清正公は、甲佐神社の神に何日も祈り続けました。するとある夜のこと、清正公は川のこちら岸から向こう岸へ、鶴の鳥がななめに並んでいる夢を見ました。夢から覚めて「神様のお告げに違いない」と、馬を飛ばして緑川に行くと、夢と同じように鶴が並んでいました。その通りに堰(せき)を造ったところ、激しい水にも流されない堰が見事にできました。2つの川は一つになり、川底だった所は何ヘクターもの水田に変わりました。こうしてできた「鶴ノ瀬堰」は現在もその姿を残しています。



鶴ノ瀬堰の話

甲佐神社

阿蘇社の二の宮と呼ばれる甲佐神社は、健康社、郡満社とともに阿蘇四社に数えられ、12世紀には阿蘇本社鎮の末社鎮となっていました。阿蘇の神、甲佐明神を祭る霊験殊勝の社壇とされています。

また、鎌倉時代後期、肥後国の御家人、竹崎季長が文永、弘安の役における自己の奮戦の様子を描かせた「蒙古襲来絵詞」を奉納したことでも有名です。

お祭り & イベント スケジュール

3月9-10日

初市

毎年3月9日・10日に商店街で行われる春を告げる甲佐初市。大売出しや、各種催し物で賑わいます。

7月下旬

あゆまつり

市街地を中心に行われる甲佐町の最大イベント。総盆踊りに続き、緑川に上がる花火が見ものです。

11月中旬

産業文化祭

甲佐町で生産された農産物の品評会や甲佐町文化協会所属団体の作品展示、ステージ発表など内容盛りだくさんのイベントです。

11月最終日曜日

熊本甲佐10マイル
公認ロードレース大会

日本陸連公認の10マイルレース。一流選手の力走に、沿道を埋める観衆から声援が飛びます。

熊本甲佐10マイル
公認ロードレース大会
(11月最終日曜日)

10マイル(約16.09km)のタイムを競う熊本甲佐10マイル公認ロードレースは、有力実業団からトップランナーが多数出場する日本有数の10マイルレース。冬の甲佐路を舞台に競技者たちが、テッドヒートを繰り広げます。同日は、高校男子10キロの部、女子の5キロ部、中学男子5キロの部も開催され、コース周辺は、寒さをものともしないアスリート達と声援を送る観衆たちで埋まります。



産業文化祭 (11月中旬)

豊かな実りと、文化が薫る秋の祭典、甲佐町産業文化祭は、役場周辺で開催。産業祭の部では、農林産物やその加工品の展示即売のほかミカンのつかみ取り、ニラ飛ばし大会などのイベントが、文化祭の部では、絵画、書、写真、生け花、手工芸品などの展示が、ステージではコーラス、詩吟、日舞、洋舞などの発表が行われます。

初市 (3月上旬)

甲佐に春の訪れを告げる初市。甲南通りには、露天商が苗木や花苗、庭木や盆栽などをとところ狭しと並び、商店街の各店舗も軒を連ねる露天商に負けじと大売出し。初市名物の「五郎鮎」を求める客の姿も大勢見られます。



あゆまつり (7月下旬)

あゆまつりは、市街地に住民グループが制作した凧り物が展示され、元気な子どもみこしが練り歩きます。夕暮れ時からは町民総盆踊り大会。まつりの最後を飾るのは、緑川河川敷で行われる花火大会。打ち上げ花火と仕掛け花火が、川面を美しく彩ります。

人のポテンシャルが
ここに



甲佐町の沿革

甲佐町は、徳川（江戸）時代、甲佐手水
総庄屋の支配下に統一されて、現在の各大
字は独立した町村として、それぞれの庄屋
に支配されていました。

明治4年7月の廃藩置縣、明治5年6月
の大小区制により、旧甲佐町、宮内村、電
野村の各地区1町15村を1区とし、岩下町
に戸長役場が置かれ、また旧白旗村、乙女
村地区の13村を1区とし、津志田に戸長役
場が設置されました。

その後、明治11年7月都区町村編成法が
発せられ、各戸長役場の区域が変更されま
した。

明治17年5月には、戸長役場区域の拡大
が指令され、岩下町列として旧甲佐区域、
小鹿村列として旧宮内村区域、上早川村列
として旧電野村区域、糸田村列として旧白
旗村区域、津志田村列として旧乙女村区域
がそれぞれ独立した行政区となり、新しい
戸長役場が設置されました。

引き続き明治22年4月に市町村制が施行
され、旧甲佐町、宮内村、電野村、白旗村、
乙女村の甲佐郷5カ町村が誕生しました。

昭和30年1月1日に、旧5カ町村（甲佐
町、宮内村、電野村、白旗村、乙女村）が
合併。現在の新しい甲佐町が発足しました。

甲佐町の歴史

昭和30年	合併と同時に新庁舎を建築
昭和31年	財政再建計画を策定し、宮内、電野、乙女の出張所 を廃止。出張所は白旗のみとなる
昭和34年	有線放送電話施設完成
昭和43年	学校給食センター完成
昭和47年	町営バスが運行開始
昭和48年	統合中学校、老人いこいの家、幼稚園完成
昭和49年	緑川保育所完成 ※平成21年民営化
昭和59年	グリーンセンター完成
昭和60年	トレーニングセンター完成
平成元年	町花、町木、町民憲章、制定。井戸江峡キャンプ場 が完成。市街地カラー舗装完成
平成2年	老人ホーム「緑川荘」完成 ※平成21年民営化
平成12年	こみ処理施設完成（御船町と共同）
平成13年	川平キャンプ場完成
平成16年	総合保健福祉センター完成
平成17年	グリーンハル甲佐（グラウンド・ゴルフ場）完成
平成19年	農業研修センター「ろくじ館」完成
平成21年	甲佐大橋開通
平成21年	地籍調査事業完了
平成21年	甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター完成
平成21年	議会棟完成
平成21年	防災行政無線運用開始
平成21年	統合甲佐小学校、学校給食センター完成



町長あいさつ



甲佐町長
奥名 克美

甲佐町は、四季折々の花が咲き誇り、自然豊かな緑の山々に囲まれ、町を潤す清流「緑川」の恵みと共に暮らす「花と緑と鮎の町」です。

肥後藩主・細川家ゆかりの史跡で落ち鮎を味わえる「やな堀」や、心地よく水辺で緑川の自然と触れ合える「津志田河川自然公園」、開花時期には上品な香りで地域を包み込む国指定天然記念物「麻生原のキンモクセイ」をはじめとする数多くの観光資源は、多くの来訪者を穏やかにもてなし、優しくいやしています。

現在、甲佐町では、「甲佐ルネッサンス」と題して、甲佐町再生に向けた改革に取り組んでいます。行財政改革を断行するとともに、その効果を少子高齢化に対応した医療・保険・福祉対策などの生活環境施設の整備や資源循環型社会の構築、教育環境の充実などに有効に充て、「安心・安全の町づくり」、「住民参加型の町づくり」を目指して政策を実施しています。

皆さまには、本誌を通して甲佐町に関心を高めていただき、より理解していただきますようお願い申し上げます。

甲佐町マップ

- 熊本市内より車で 約30分
- 九州自動車道
- 御船ICより 約15分
- 益城空港ICより 約30分
- 小池高山ICより 約15分
- 松橋ICより 約20分
- 熊本交通センターより 約45分
- 熊本バス
- 辺場経由甲佐町 約45分





町章

甲の字の両端に平和のシンボル鳩の羽を配置。縦心棒は、別名：甲佐富士と呼ばれる甲佐岳を模し、天に向かって伸びゆく町を表現。地の色は町の約半分を占める山林と緑川の緑から。

(昭和33年制定)



ロゴマーク

赤色で人々の情熱と太陽を、青色で川の流れとそこにすむ鮎を、緑色で自然にいきづく鳥を、全体で甲佐町の「K」の文字をかたどり、まちが、元氣と自然に満ちあふれている様をアピールしています。

(平成10年選定)

花と緑と鮎の町
こうさ



町木／きんもくせい



町花／きく

【甲佐町町勢要覧】

発行／熊本県甲佐町

編集／企画課

発行年月／平成27年3月(改訂)

熊本県甲佐町

熊本県上益城郡甲佐町豊内719-4

TEL 096-234-1111 FAX 096-234-3964

URL <http://www.town.kosa.kumamoto.jp>